

より高い「めあて」にむかって、努力しよう

夏休みが終わって、久しぶりに学校に子どもたちの元気な声もどってきました。

しかし、これまでに経験したことがないような強い台風が近づいており、8月30日は休校となるなど、大変な2学期スタートとなりました。それでもコロナの行動制限のない40日間の夏休みは、子どもたちにとって思い出深いものになったようです。夏休みに体験したことは全て2学期のエネルギーとなるはずです。

子どもたちは将来どんな職業に就きたいでしょうか？日本FP協会の調査によると2023年度小学生が「将来なりたい職業」ランキングで、男子は「サッカー選手・監督」、女子は「医師」がそれぞれ1位だったそうです。

憧れるスポーツといえば、今年パリオリンピックでも様々なスポーツで活躍する人々を見ることができました。その中でも印象深いのがスケートボードで金メダルをとった堀米雄斗選手です。

堀米選手がスケートボードを始めたのは6歳の頃。その頃から人をまねるのではなく、人と違う技やだれもまねできない技を考えていたそうです。とにかく練習に明け暮れ、平日で4時間、土日で8時間の練習を重ね、22歳までに練習で履きつづいたシューズは1000足以上です。高校卒業後はスケートボードの本場であるアメリカに渡り、挑戦し続けました。

パリオリンピック決勝、ラスト1回のチャンスの場面で、堀米選手は7位でした。優勝するためには、これまで1度しか成功したことのない難しい技を成功させなければなりません。堀米選手はこの時、「可能性が1%でもあるならやろう」と決めました。1%とは100回やって1回しか成功しないぐらいの難しさです。でも、堀米選手は強い気持ちで挑戦し、成功したのです。

2学期は向上期といわれます。向上期とは「今より少し高いめあてをたててそのめあてを達成するために努力する」ということです。堀米選手ほど高くはありませんがめあてにむかって努力するところは同じですね。

南小立野小学校の学校のめあて「ともに生きる」のために、大切にしている「みる・なかよく・みんな」。その中から、2学期は特に「みんな」から始めます。

この「みんな」とは、心も体も元気でいて、なんでも挑戦する気持ちになってほしいということです。そのためにみんなに関わり合い、つながることを大事にしてほしいです。

さっそく、友達と夏の思い出などたくさん話し合い、心も体も元気にして、2学期をスタートさせましょう



み みんな
みんな元気で
なんでも挑戦



南小立野小学校
校長 中川佳美